

〈企画展〉

# ここに根をはる

津波のあとの植物たちとその環境

2023.3.25<sup>土</sup> - 7.16<sup>日</sup>  
せんだい3.11メモリアル交流館  
(地下鉄東西線荒井駅舎内)

2階展示室 / 入場無料

開館時間：10:00～17:00

休館日：毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)

祝日の翌日(土・日・祝日を除く)

主催：せんだい3.11メモリアル交流館



《38° 12'55"N 140° 59'02"E (荒浜のシロツメクサ)》(部分/2022年~)



すべてが一変したあの日。  
海辺の暮らしを見守ってきた松林はなぎ倒され、一面が土砂と瓦礫に覆われた光景に色は無く、緑豊かな自然はすっかり失われたかのようにでした。しかし春を迎えると、そこには再び芽を出し、花を咲かせる植物の姿がありました。

静かに、そして雄弁に、  
自らが根をおろした環境を語る植物たち。

本企画展では、津波浸水域に芽生えた植物を描き続ける画家・倉科光子氏の水彩画作品15点と、仙台東部沿岸地域の植物をめぐる環境の変遷についてご紹介します。

倉科光子 Misako Kurashina

青森県三戸町出身。手書き友禅を学んだことをきっかけに、2001年より植物画の制作を始める。2011年東京農業大学緑地生態学履修。2013年に東日本大震災の被災地へ赴き、以降津波浸水域に芽生えた植物をテーマに制作を続けている。

国立科学博物館植物画コンクール 筑波実験植物園長賞

カーネギーメロン大学 ハント国際植物画コンクール

RHS 英王立園芸協会 Botanical art and Photography Show  
ゴールドメダルおよび審査員特別賞受賞

津波は永い間地面に埋もれていたタネを掘り起こし、浸水域にはそれまで見られなかった植物が繁茂しました。それらの多くは消えてしまったように見えますが、いまだにちよつとしたきつかけで芽吹き、根をはる姿を私たちに見せてくれます。自然の脅威に私たちが呆然としていた頃、小さな植物は芽を出す準備に取り掛かっていた事を私の絵から読み取っていただけたら幸いです。

倉科光子



《Certain place in Iwate (マルミノシバナ)》(2018年~2021年)



《Certain place in Fukushima (スナビキソウ)》(2018年~2020年)

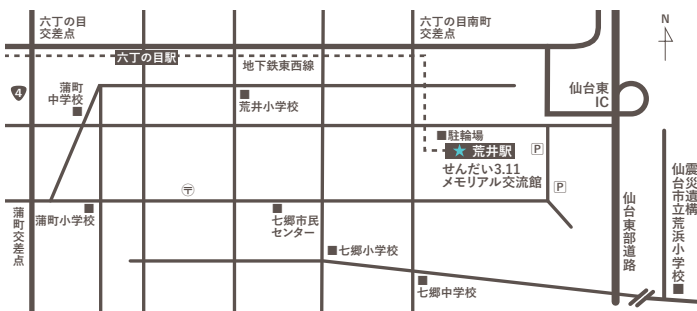


《Certain place in Miyagi (ウミドリ)》(2018年~2021年)

## 主催・お問合せ/せんだい3.11メモリアル交流館

〒984-0032 宮城県仙台市若林区荒井字杏形85-4 地下鉄東西線荒井駅舎内

電話：022-390-9022 メール：office@sendai311-memorial.jp



### アクセス

- ▶ 仙台空港から  
仙台空港アクセス線仙台行きで25分、仙台駅で地下鉄東西線に乗り換え
- ▶ 仙台駅から  
地下鉄東西線荒井駅行きで13分

※お車で越しの方は、近隣の有料駐車場をご利用ください。  
※バイク・自転車でお越しの方は、荒井駅駐輪場(有料)をご利用ください。

## 企画展関連イベント

期間中、植物観察会や関連団体の展示、倉科光子氏とのトークイベントなどを開催予定です。詳しくはせんだい3.11メモリアル交流館のホームページをご確認ください。



メモリアル交流館  
ホームページ



未来のせんだい2023  
~ Feel green ~